

# 銀色のライセンス

企画・制作  
：プリエール

## 言わせて! 今日の芝居 五十字劇評 No.51

【六〇代】  
▼一〇分程度の寸劇コントを一時間超に延ばした感。高齢者講習の一風景を描いても演劇としては弱すぎる。しつかり芝居を作って欲しいと脚本家に物申したい。

(男性)

▼七十八歳だった母に運転を止めるよう、頼んだことを思い出しました。四十五年皆の運転手として、仕事に遊びにフルに運転していました。彼女は、少し考え込んでいましたが、一度のお願いですっぱりあきらめてくれました。彼女の判断力と決断に私は拍手でした。その年まで、あと十五年の私、彼女のように娘に言われたら「スッパリとやめよう」と今は思っている。

(女性)

▼台本を事前に読んだ時には面白くなかったが、舞台はそれに比べると少しは芝居らしくなっていたかなと思う。それでも観終わったあとと物足りなさを感じた。物語がシンプルな割には、何を言いたいのかストーリーには伝わってこなかった。

おそらく運転免許証の意味や家族から頼りにされなくなった母親の思いがテーマだと思うが、そのところをもつと掘り下げてもらいたかった。薄っぺらな感じがした。ただ、母親役倉野章子の最後の部分の台詞は良かったし、高畑こと美が意外に面白い味を出していたと思う。死神の落語も奇を衒ったようで、必要だったのか疑問に思った。(男性)

▼ミニコント集かと思いきや、あるある感の喜怒哀楽と運転免許という命をあずかるリアルを少人数の役者で描写。(女性)

▼「銀色のライセンス」よかったです。免許の更新はひとつのキツカケ。自分を見つめ直すことになったと思う。(女性)

▼免許更新の考え方は、年齢ではなく運転に少しでも自信が失くなった時に自身で返納しようと思っっています。(女性)

【七〇代】  
▼教習所でのある日。懐かしい家庭劇(ホームドラマ)の感じ。ハリーが鬼軍曹と判った時は何か嬉しかった。H・ポッターではなくダーティ・ハリーのつもりだったろう、彼は。





▼銀色って何かかと考えながら観てたけど、わからない。つかれた。思いつきの自己満足だけでつくられた深みのない話。

▼今回の芝居、死神とのつながりがよくわからないまま過ぎてしまった。芝居に出てきた死神はなんだったの？  
(女性)

▼車社会において「高齢者の免許更新はどうすべきか」とひとくくりに来れない。高齢になっても暮らしやすい公共交通手段を論ずるべきと思う。芝居では、最初セリフも含め何が言いたいか伝わらなかったが、お母さんの想いが表現された場面であつたと救われました。年六回違ったジャンルの演劇を楽しみたいと思つていきます。

▼会場に入り舞台を見て、あれ、そうだ落語から始まるって書いてあつたと気が付き、どんな舞台に変わっていくのかが楽しみになりました。久しぶりの落語に感動していると、自然と「銀色のライセンス」の舞台へと。最後は、落語「死神」のセリフの落ちがついて何となくまとまっているのだ

が、何か物足りなさを感じた。お母さんのセリフで、「好きなことをしたらいい」といつも言われるが本当は違ふと。私も母によく言った言葉なので、お芝居を観ていて母はどう思っていたのかと少々涙が出てきました。  
(女性)

【八〇代】

▼落語と演劇といっしょに鑑賞でき、少し得した気持ちでした。落語「死神」が劇中にもからんできてビツクリポン。  
(女性)

編集スタッフから

会員のみなさん、お芝居楽しめました。今回4月担当の集まりで、市民劇場は民主主義の学校の発言があり、改めて会員証を読んで見た。会則の第3条(目的)に会員が演劇を継続して鑑賞することを目的とし、会の活動を通して人間関係が広がることを図り、日本演劇の民主的な発展と普及をめざします。シンブルだけど、今この事が求められていることを納得しました。芝居を観ることでつながり、会員が会費を払い運営している団体、厳しい社会環境ですが、みんなつながりましょう。投稿お待ちしております。